

「揺られて」

— 2 稿 —

2025/1/31
雨森 れに

〈人物表〉

野村 のむら

綾香 あやか

(35)

社会人。妊活をしている

野村 のむら

幹久 みきひさ

(40)

綾香の夫

田島 美穂

(64)

綾香の母親

田島 千香

(30)

綾香の妹

〈ログライン〉

毒親から離れられない綾香が、妊娠をきっかけに子供の育て方について考え、母親と距離を置く。

〈テーマ触媒〉

母親

〈テーママップック〉

母親の在り方／毒親

1. アパート・寝室(朝)

薄暗い室内でアラームが鳴る。

田嶋綾香(35)が、寝ている野村幹久(40)を揺する。

綾香 「ねえ、アラーム鳴ってる」

幹久 「うーん」

幹久、眠そうな様子でスマホを触る。

だが、音が止まらない。

綾香が苛立って照明をつける。

綾香 「ちよっと何やってんの」

幹久 「俺じゃないって。綾香のじゃん」

幹久がスマホを差し出す。

着信中。表示は「お母さん」。

綾香 「お母さんだ」

幹久 「なんかあったのかも。早く出なよ」

綾香、頷いて、電話に出る。

綾香 「もしもし?」

田嶋美穂(64)が不機嫌そうな声で、

美穂の声 「なに、まだ寝てたの」

綾香 「まだって……今、朝の5時だよ?」

美穂の声 「私が起きてるのにお姉ちゃんが寝てちゃダメでしょ。」

それでね、ちよっと話したいことがあって」

綾香 「急がないなら今日帰りにそっち寄るけど」

美穂の声 「じゃあ7時までに来てくれる?」

綾香 「わかった。それより遅くなる時は連絡する」

綾香、返事を待たずに通話を切る。

幹久 「お母さん、なんだって?」

綾香 「わかんない。帰りに実家に行ってくる」

幹久 「そっか。なんていうか、大事じゃないといいけどなあ」

綾香 「どうせまたお金の話か、妹の話だよ。あー行きたくない」

幹久 「なら行かなくてもいいんじゃないの」

綾香は幹久の目を見つめる。

綾香 「……ほら、遅れちゃうよ」

幹久 「(スマホで時間を確認して) そうだね。じゃ、お母さん

の話がわかったら教えてよ」

幹久が寝室から出ていく。

綾香は再度横になり、基礎体温を測り始める。

体温計が鳴る。

しかし、表示を見て再度測り直す。

2. 田島家・外観（夜）

一戸建ての家。一階、二階と電気が点いている。

綾香、二階を怪訝そうに見る。

3. 田島家・一階・リビング（夜）

お茶を飲む綾香と美穂。

綾香の手元には干し梅のパッケージが置いてある。

美穂、干し梅をちらりと見て、

美穂 「干し梅なんて懐かしい」

綾香 「さっぱりしたい時はちょうどいいよ。それで？ 話って？」

二階から大きい物音。そして女の奇声が聞こえる。

綾香が視線を天井へ向ける。

美穂も困ったように天井を見る。

美穂 「千香が帰ってきてるの」

綾香 「え？ 結婚するって言ってたじゃん」

美穂 「そうなんだけど。ブライダルチェックで引っかけかっちゃってねえ」

綾香 「あー。今、多いうって言うもんね。でも治療とか、できるんじゃないの？」

美穂 「やっても難しいみたい。タマゴが定着しないとかで」

綾香 「夫婦ふたりでいるんじゃないやダメなの？」

美穂 「それがね、先方の親御さんが大反対で」

二階から物を投げる音。

綾香 「（再度天井を見て）で、このざまかあ」

美穂 「だからお姉ちゃんさ。何とかしてあげてよ」

綾香 「何とかってなに——うっ」

綾香、口元を押さえる。

美穂 「やだ、ちょっと。どうしたの」
綾香 「吐きそう」

綾香、トイレへ走る。

4. 田島家・トイレ前（夜）

綾香のえずく声がある。

美穂、扉の前で不満げな表情。

流す音が聞こえ、綾香が出てくる。

綾香 「ごめん。こんなに気持ち悪いの初めてで」

美穂が怒りの表情に変わる。

美穂 「あなた、もしかして妊娠してるんじゃないの？」

綾香 「えっ」

綾香、おそろおそろ手をお腹に当てる。

美穂 「どんな人なの？ ああもう、タイミングが悪すぎるでしょ」
よ

綾香 「タイミング？ 何言ってるの？」

美穂 「千香ができないで帰ってきてるのに、あなたがデキ婚なんてダメでしょ。お母さんどうしたらいいの？」

二階から奇声がある。

美穂 「（悲しそうに）千香になんて言えばいいの？」

綾香、お腹に当てている手に力を込める。

綾香 「いつも千香千香って……私の心配はできないわけ？」

美穂 「お姉ちゃんは自分で何とかできるじゃない。でも千香は

——

綾香が怒りを収めるように大きく息を吐く。

綾香 「もういい。こっちの家には迷惑かけないから」

美穂、はっとした顔。

美穂 「違う、迷惑とかじゃなくて。ちょっと、お姉ちゃん！」

綾香 「私、お母さんのお姉ちゃんじゃない」

綾香、引き留めようとする手をはたく。

5. アパート・リビング（夜）

綾香、寝室のドアをそっと開ける。

幹久がいびきを立てている。

寝室を閉め、ソファアーに座る。

テーブルには妊娠検査薬。陽性の印が出ている。
考え込むように検査薬を見つめる。

× × ×

アラーム音。

綾香がソファアーで飛び起きる。

目の前には幹久。心配そうな顔をしている。

綾香 「幹久、私、赤ちゃんが……」

幹久 「うん」

幹久は優しく微笑んで、次の言葉を待つ。

綾香 「でも、千香が子供できない体なんだって」

幹久、表情を強張らせる。

幹久 「それってどういう意味？」

綾香 「お母さんに、千香ができないのにお前ができるなんてつて怒られた」

幹久 「（憤慨して）え？ 怒るのは違うでしょ。今だから言うけど、綾香のお母さん、やっぱりおかしいよ」

綾香 「孫ができたら変わると思ったのに……」

綾香、顔をあげる。

綾香 「あんな親しか知らなくて、私、大丈夫？」

幹久 「綾香がいい親になれるかどうかってこと？」

綾香 「きつとお母さんみたいになるよ。普通がわからないんだもん」

幹久 「普通がわからないなら、俺たちの理想を目指せばいいじゃない」

幹久が綾香の手を握る。

幹久 「俺もいるんだよ」

綾香 「でも」

幹久 「そもそも、こんなに悩んでるのに、同じになるわけないでしょ」

幹久が綾香を抱きしめる。

綾香も応えるように腕を回す。

幹久 「どうすればいいか、一緒に考えようよ」

綾香 「うん……否定しないで聞いてくれる？」

幹久 「もちろん。なんでも聞くよ」

綾香 「子供を、お母さんに会わせたくないの。だから——わっ」

緊急地震速報が鳴り響く。

部屋が大きく揺れ始める。

幹久 「テーブルの下行って！」

幹久は綾香をテーブルの下に押し込む。

幹久自身は頭だけ入れ、テーブルの脚を支える。

戸棚が倒れ、食器が割れる。

綾香は**お腹を守るようにして**、恐怖に耐える。

揺れが徐々に収まっていく。

幹久 「綾香、ケガは？」

綾香 「してない。でも子供にはストレスかかったと思う……」

幹久 「できるだけ早く病院に行かなきゃな。また地震来るかも

しれないし……いろいろ準備してくるから待ってて」

幹久が寝室へ向かう。

綾香はソファァーに座り直して、お腹に話しかける。

綾香 「絶対守るから、安心してね」

綾香のスマホが鳴る。美穂からの着信。

綾香 「もしもし」

美穂の声 「綾香、大丈夫だった!？」

綾香 「え? 心配してくれ——」

美穂の声 「(遮って) 千香が怪我しちやって大変なの!」

綾香、一瞬固まるが、

綾香 「(鼻で笑って) 私なら迷惑かけないのにね」

美穂の声 「そういうことじゃなくて!」

綾香、スマホの電源を切る。

幹久 「お母さん?」

綾香 「うん。でも切っちゃった。充電ももったいないし」

幹久 「大丈夫?」

綾香 「むしろ吹っ切れた。あんな親にはならないよ」

綾香が立つ。晴れやかな笑顔をしている。

綾香 「私も準備する」

おわり